



学校だより

伸びゆく子

令和8年4月30日
横浜市立中沢小学校
5月 号

願いを込めて

校長 宮路 ますみ

近年の温暖化の影響もあり、桜が散った途端に春が一気に駆け抜けて、初夏の訪れを感じさせるような気温の日もあります。校庭で子供たちの多くは半袖で駆け回っています。

休み時間の子どもたちは、本当に楽しそうに過ごしています。ボール遊びを友だちとしている子、鬼ごっこをしながら楽しそうにおしゃべりしている子、のんびり教室でお絵描きをしている子など、様々です。現代の子どもたちは、あまりにも時間に追われているなと感じるのは私だけでしょうか。私が子どもの頃は、自由に過ごす時間がたくさんあって、その中で友だちとの関係づくりを学び、様々な分野に派生するような体験をすることができていたように思います。

いよいよゴールデンウィークが始まります。まとまった休みですので、緊張した4月を過ごした子どもたちにとっては願ってもない休日だと思います。思いっきりリフレッシュして、お出かけしたり、読書をしたり、散歩したりと思い思いの休日を過ごして、心も体もゆっくり休めてほしいと思います。この時期、外を歩いていると悠然と泳ぐこいのぼりに出くわすことがよくあります。5月5日は子どもの日。古くは「端午の節句」といって、男の子の成長を祝い、立身出世を祈願するための日だったと言われています。なぜ5月5日にこいのぼりを立てるようになったのでしょうか。

もともと庭に立てられていたのは、こいのぼりだけではなく「武者のぼり」と言われるものだったそうです。武者のぼりの起源は、戦国武将の「旗指物」にあるとされています。時代劇の戦いのシーンで家紋のついた旗を揚げていたり、馬に乗った武将が鎧に旗を挿して走っていたりするのを見たことがあると思います。あの旗のことです。室町時代末期の武家社会では、端午の節句に虫干しを兼ねて旗指物を飾る風習があったそうです。それを庶民が真似て旗を飾ったことが始まりだと言われています。武家の旗指物には、家紋のみが描かれていますが、庶民が立てた武者のぼりには、金太郎や武者絵などが描かれていて、「子どもに幸せな人生を送ってほしい」という願いが込められていたそうです。立身出世のシンボルとして「鯉の滝登り」の図柄が描かれることがあり、その小旗が時代と共に変化し、現在のこいのぼりになったそうです。時代によってさまざまな形に変化しながらも、それを飾ることで自分の子どもの幸せを切に願っていた親心は、昔も今も変わることはありません。「元気よく育ってほしい。幸せになってほしい。」と願いを込めて飾るこいのぼり。今日も元気よく大空を泳ぎ、子どもたちを見守っています。